

令和6年能登半島地震に係る石川県動物対策本部の活動報告

公益社団法人石川県獣医師会
常務理事 小澤 正

(はじめに)

令和6年1月1日午後4時10分、石川県能登地方を震源としたマグニチュード7.6の地震が発生した。震度は、輪島市及び志賀町で震度7、七尾市、珠洲市、穴水町、能登町で震度6強、中能登町で震度6弱、金沢市はじめ石川県内各地で震度5強の揺れが観測された。

令和6年能登半島地震

発生日時 令和6年1月1日16:10
震源及び規模(暫定値) 場所:石川県能登地方(北緯37.5度、東経137.3度)
規模:マグニチュード7.6(暫定値) 震源の深さ:16km(暫定値)
各地の震度(震度5強以上)
石川県:震度7 志賀町、輪島市
震度6強 七尾市、珠洲市、穴水町、能登町
震度6弱 中能登町
震度5強 金沢市、小松市、加賀市、羽咋市、かほく市、能美市、宝達志水町
新潟県:震度6弱 長岡市
震度5強 新潟中央区、新潟南区、新潟西区、新潟西蒲区、三条市、柏崎市
見附市、燕市、糸魚川市、妙高市、上越市、佐渡市、南魚沼市、阿賀町、刈羽村
富山県:震度5強 富山市、高岡市、氷見市、小矢部市、南砺市、射水市、舟橋村
福井県:震度5強 あわら市

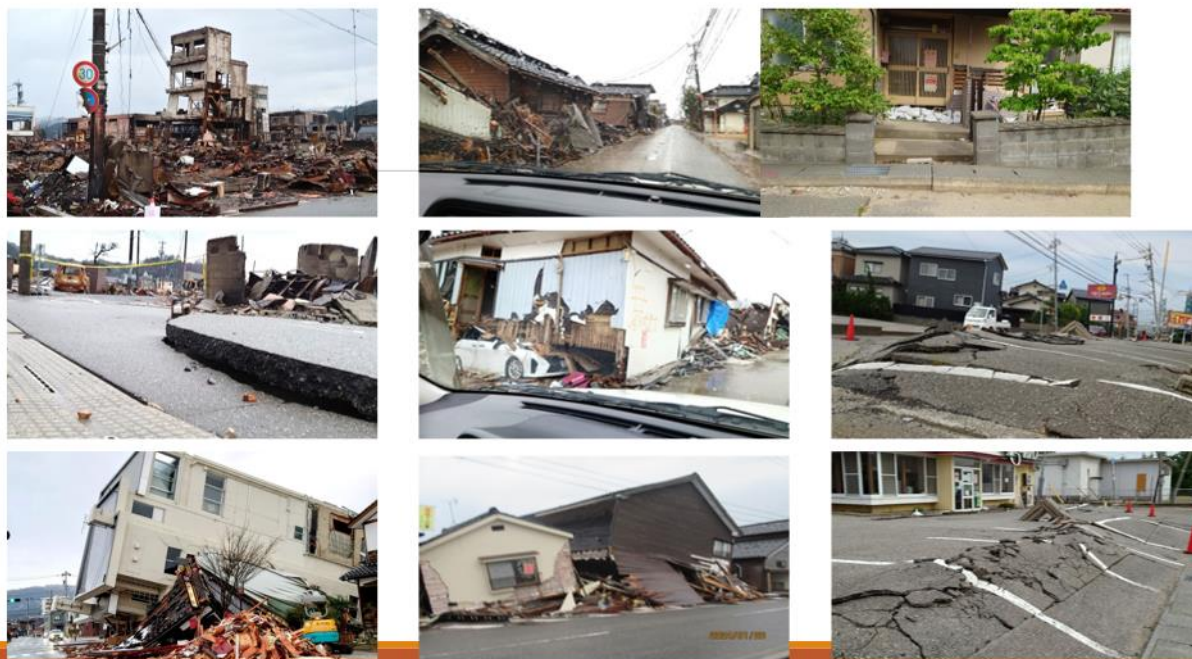


人的・住家被害等の状況（消防庁：12月24日14：00現在）

都道 府県	人的被害							住家被害					
	死者	うち災害関連死	行方不明者	負傷者			合計	全壊	半壊	床上浸水	床下浸水	一部破損	合計
				重症	軽傷	小計							
	人	人	人	人	人	人	人	棟	棟	棟	棟	棟	棟
新潟県	4	4		11	43	54	58	109	4,080		14	19,861	24,064
富山県	4	2		14	42	56	58	259	805			21,341	22,405
石川県	483	255	2	378	876	1,254	1,739	6,077	18,328	6	5	77,990	102,406
福井県					6	6	6		12			815	827
長野県												20	20
岐阜県					1	1	1					2	2
愛知県					1	1	1						
大阪府					5	5	5						
兵庫県					2	2	2						
合計	489	261	2	403	976	1,379	1,870	6,445	23,225	6	19	120,029	149,724,334

〔死者の内訳〕
〔石川県〕七尾市38人、小松市1人、輪島市181人、珠洲市146人、羽咋市4人、白山市1人、内灘町5人、志賀町17人、中能登町1人、穴水町38人、能登町51人

石川県内の被害は地震による直接死亡者227名、その後の地震関連死亡者170人の合計397人の死者が発生した（消防庁情報：令和6年10月1日現在）。また、負傷者は1,212名、全壊した家屋6,055棟、半壊した家屋18,081棟、一部破損した家屋63,410棟等87,557棟の家が被害を受けた。（下表参照）



石川県獣医師会では、地震発生後直ちに電話、メール等により会員の安否確認を行うとともに、住宅等の被害確認を行った。1月2日からは金沢市内にあるため地震被害を免れた獣医師会事務局に出勤し、引き続き会員の安否確認を行った。幸い会員の人的被害はなかったが、珠洲市、輪島市、七尾市居住の会員の住居にかなりの被害が確認された。また、輪島市2戸、珠洲市1戸、穴水町1戸、七尾市4戸の動物病院は多かれ少なかれなんらかの被害を受けていると共に、電気や水道が止まっている事もあり、営業できる動物病院は無く、結局全ての動物病院が診療を開始できたのは3月末となった。

（対策本部の立ち上げ）

石川県獣医師会では、1月4日及び5日に役員を招集、地震対策会議を開催し対応を協議した。7日には石川県獣医師会、石川県健康福祉部薬事衛生課、日本獣医師会、環境省が集まり対応を協議、8日に石川県獣医師会及び石川県健康福祉部薬事衛生課で構成する「令和6年能登半島地震動物対策本部」を立ち上げた。（地震発生からの経過は下記地震発生からの経過参照）

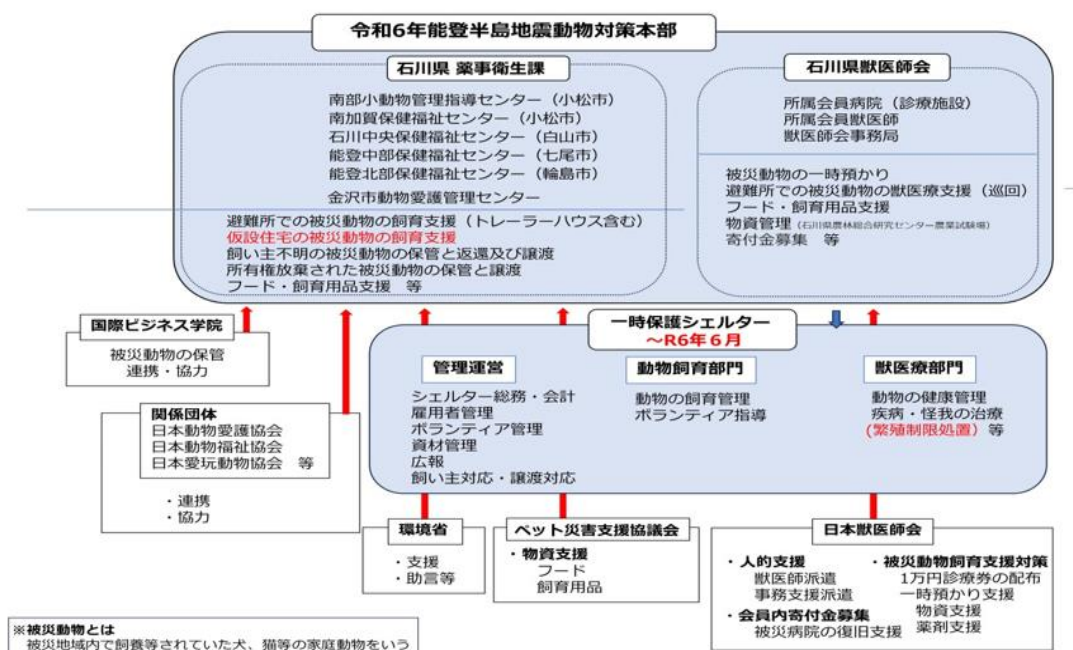
令和6年能登半島地震動物対策本部の活動

【経過】

1月 1日 地震発生(16時10分)

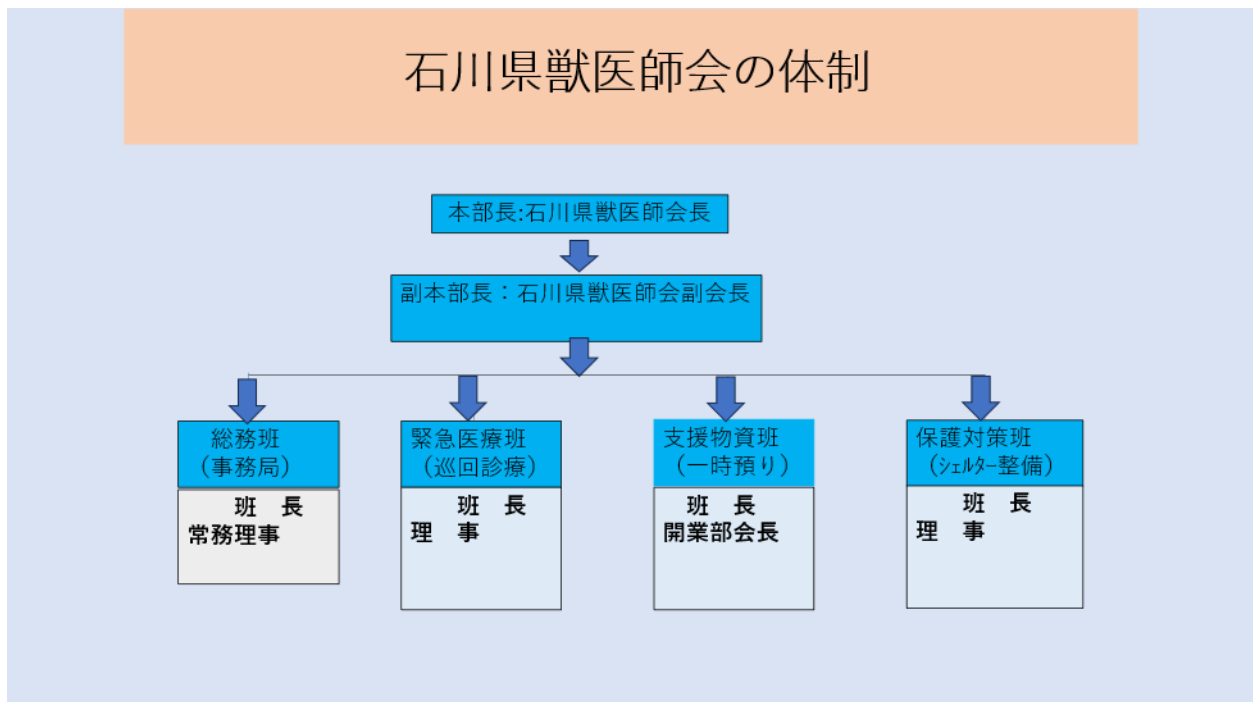
- 2～4日 会員安否確認および地震対策打ち合わせ
- 5日 能登地震災害対策会議(石川県獣医師会)
- 7日 地震対応について日本獣医師会、石川県、環境省との打ち合わせ
- 8日 令和6年能登半島地震動物対策本部立ち上げ
- 11日 支援金募集開始(令和6年能登半島地震動物対策本部)
- 15日 石川県獣医師会会員動物病院による被災者飼育動物一時預かり開始
- 21日 「ワンにゃん号」到着(岩手大学より)
- 28日 ワンにゃん号による被災地巡回診療開始
- 3月1日 被災猫無料避妊去勢手術およびマイクロチップ装着開始
- 3月16日 シェルター運営開始
- 5月1日 被災猫無料避妊去勢手術終了
- 6月31日 シェルター閉鎖

本部長は石川県獣医師会長とし、事務局は石川県獣医師会に置くことになった。また、日本獣医師会や環境省、ペット災害支援協議会等の関係団体が直接的、間接的に対策本部を支援することになった。(対策本部組織図参照)



対策本部の運営は、石川県獣医師会が行うこととし、事務局を運営する「総務班」、診療を主に担当する「緊急医療班」、支援物資の手配や一時預かりを担当する「支援物資班」、シェルターの設置・運営等を担当する「保護対策班」を設置することとして、そ

れぞれ石川県獣医師会の役員を班長に充てた。(下図参照)



対策を実施するに当たり必要な資金については、初期活動費は日本獣医師会が負担し、その後の活動に必要な資金は広く全国に支援を求めることとして、1月11日に「令和6年能登半島地震動物救済支援金」の募集を開始した。

(対策本部の活動)

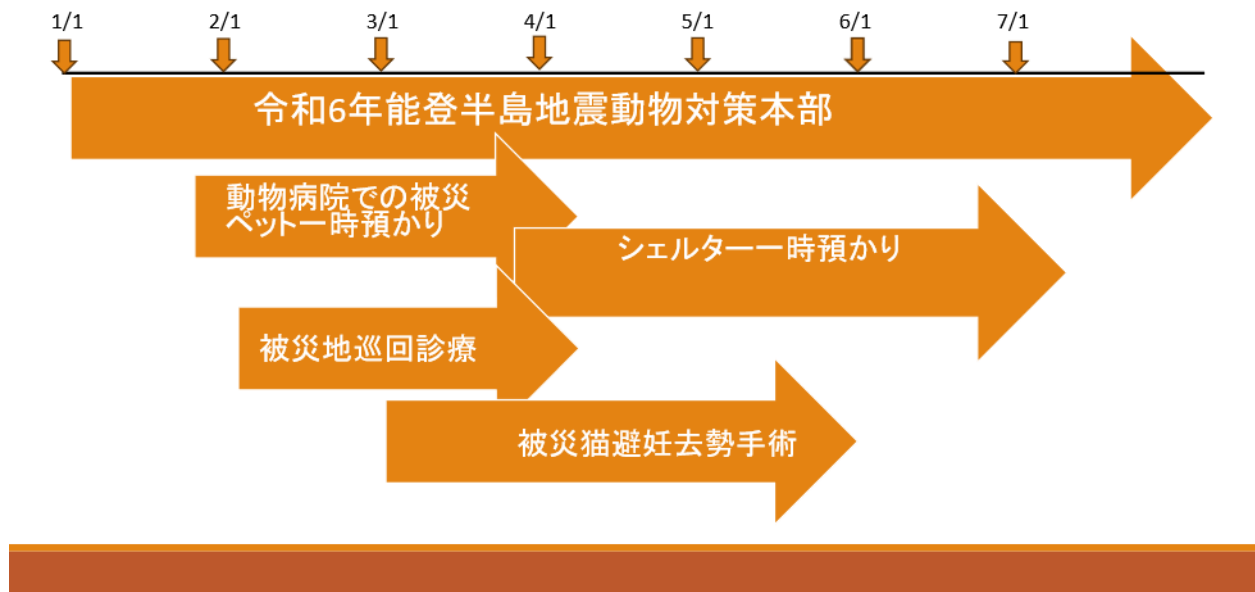
令和6年能登半島地震動物対策本部は主に以下の活動を実施した。

- 1 物資の支援
- 2 被災ペットの診療支援並びに現地診療
- 3 動物病院における被災ペットの一時預かり
- 4 シェルターの設置・運営
- 5 猫の避妊去勢手術及びマイクロチップの装着
- 6 動物対策本部の運営

各実施項目の概略については以下に述べる。

対策本部の活動は下図に示すとおりで、動物病院による被災ペットの一次預かりは1月から3月末まで、シェルターでの一次預かりは3月から6月末まで、被災地の巡回診療は1月末から3月末まで、猫の避妊去勢手術は3月から5月末までそれぞれ実施したが、対策本部は令和7年3月時点でまだ活動が続けている。

令和6年能登半島地震動物対策本部活動



(物資の支援)

被災ペットに対する物資の支援については、日本獣医師会を窓口としてペット災害支援協議会を通じ、フード、飼育用品を調達した。これらはメーカーから直接搬入され、石川県農業総合研究センターの倉庫に一時保管、県及びボランティア団体を介し被災地に送った。また、個人からの提供申し入れも多くあったが、保管場所の確保及び仕分け、配送に係る人員不足のため、個人からの物資の提供は原則お断りした。

(被災ペットの診療支援並びに現地診療)

対策本部では日本獣医師会の協力のもと、ペットを飼育している被災者の支援のための診療券（1セット1万円）を動物病院及び避難所等で700セット配布した、

被災地では全ての動物病院が被災し、電気・水道も止まっていることから通常営業ができない事態となっていた。そこで、被災地からの要望に応える形で1月末より岩手大学より借り受けた移動診療車「ワンにゃん号」を用いて現地診療を開始した。移動診療は被災の程度が大きかった輪島市、珠洲市、能登町、志賀町を対象に週2回のペースで出向き、健康診断及び軽微な治療を3月末まで実施した。

被災地巡回診療

ワンにゃん号をシンボルとして被災地への定期巡回診療を実施

【期間】

2024年1月28日～3月31日

【対象地区】

輪島市、珠洲市、能登町、志賀町

【実施回数】

15回

【出役獣医師】

石川県獣医師会有志開業獣医師



被災地の巡回診療は、動物病院が被災して診療のできない状態の地域及び、動物病院の無い地域と言うことで、輪島市、珠洲市、能登町、志賀町を対象に、1月下旬から3月いっぱい週2回のペースで実施した。診療に従事した獣医師は石川県獣医師会会員の開業獣医師の有志(一部富山県獣医師会会員獣医師)が対応し、延べ75名の獣医師が出役した。実施地域及び実施回数は以下に示すとおりである。

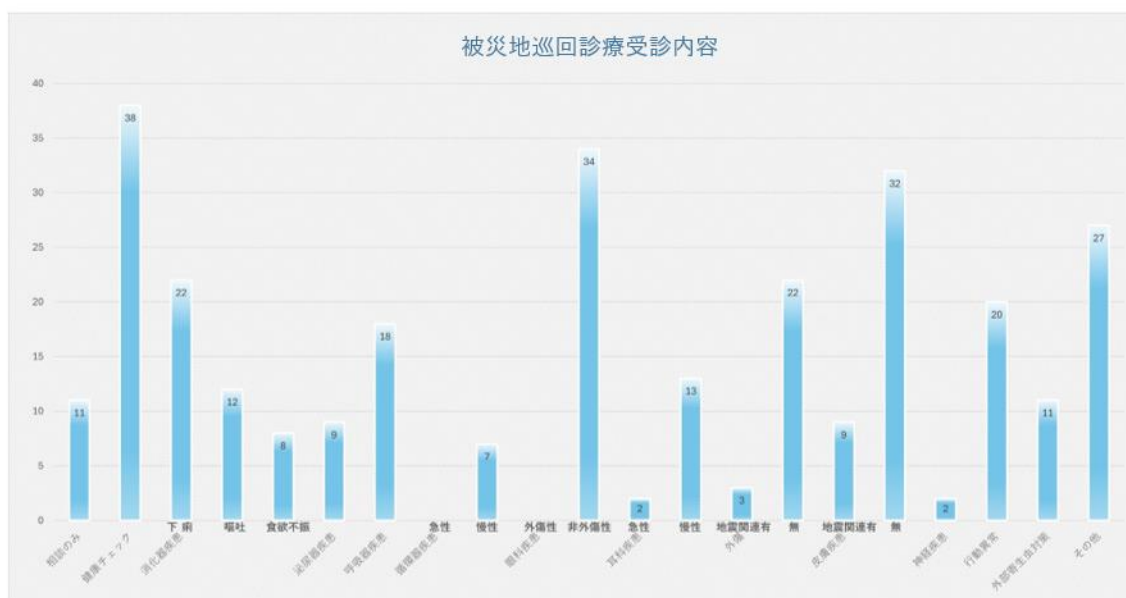
被災地での現地診療（ワンにゃん号）

1月28日（日）	輪島市ふれあい健康センター、輪島中学校	4名
2月4日（日）	珠洲市民図書館	5名
8日（木）	能登町役場	6名
11日（日）	志賀町役場富来支所	6名
18日（日）	輪島市ふれあい健康センター	6名
25日（日）	珠洲市立図書館、三崎中学校、宝立小中学校	5名
3月3日（日）	能登町役場、松波中学校	4名
7日（木）	輪島市門前町 道の駅赤神	4名
10日（日）	珠洲市立図書館、三崎中学校、宝立小中学校	7名
14日（木）	能登町役場	4名
17日（日）	輪島ふれあい健康センター	4名
17日（日）	珠洲市民図書館	5名
24日（日）	能登町松波中学校、能登町役場	4名
28日（木）	輪島市門前武道館	4名
31日（日）	珠洲市立図書館、三崎中学校、宝立小中学校	7名

計 75名

（うち富山県獣から17名）

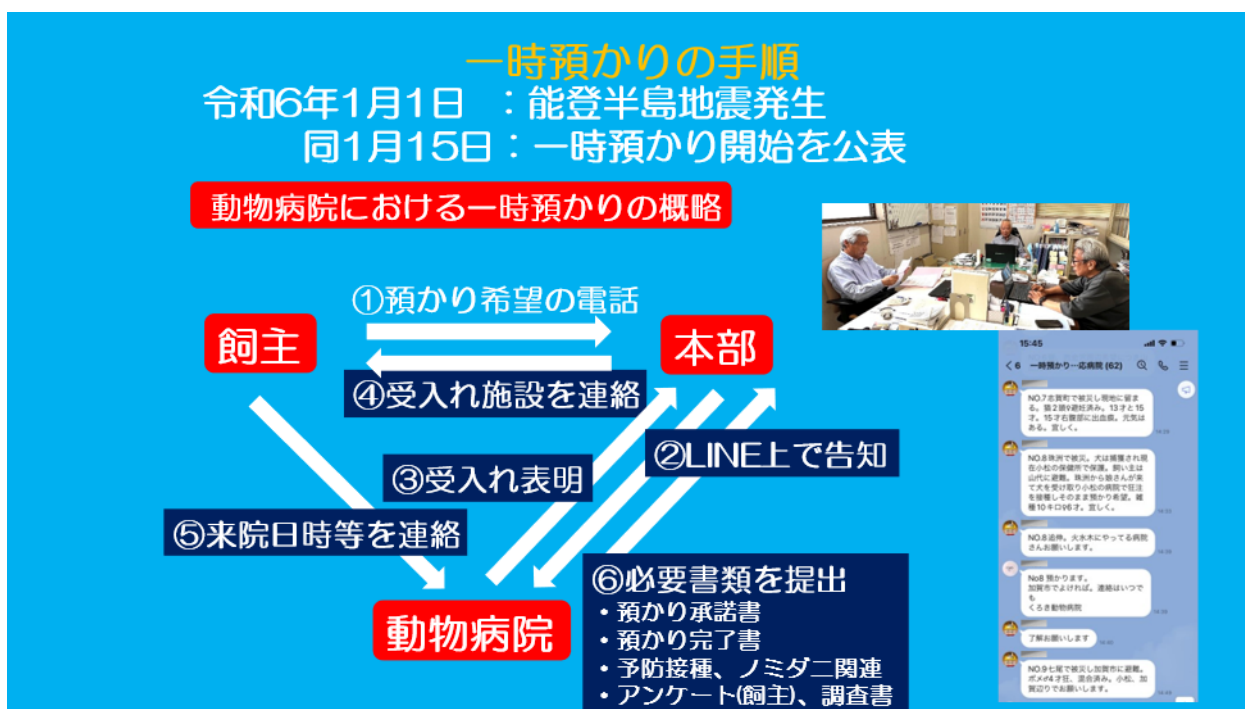
巡回診療での診療頭数は、犬164頭、猫107頭、その他6頭で、受診の内容は下のグラフのとおりで、健康診断、非外傷性眼科疾患、皮膚疾患、下痢等が主なものであった。



被災ペットの診療支援としては、診療券の無料配布を行った。これは、能登半島地震により被災し、避難生活を送っているペットの飼い主を対象に1万円の無料診療券で、日本獣医師会から提供を受けて700冊を被災者に配布した。使用期限の3月31日までにおよそ550冊あまりが使用された。

(動物病院における被災ペットの一時預かり)

地震被害の少なかった金沢以南の病院では、地震直後からペットの預け入れ依頼があった。対策本部では、こういった状況を鑑み1月15日には会員動物病院での一時預かりを開始した。当初、県がシェルターを設置するという計画があったため、預かり期間を1ヶ月に設定した。その後、県はシェルター設置を断念したため、預かり期間を2ヶ月または3月末までに延長した。一次預かりを実施するにあたっては、以下に示すペットを預かりの対象とし、預かる手順は下図に示すとおり、動物対策本部が一元的に預かり申し込みを受け付け、動物病院を割り振った。



一次預かりの対象及び支援条件は等は以下に示す通り。

被災ペットの動物病院一時預かり

【主旨】

令和6年能登半島地震により被災した飼い主が生活再建に専念できるよう、家庭で飼育されている「犬」「猫」「ウサギ」「小鳥」を石川県獣医師会有志会員病院で一時預かりをするもので、「令和6年能登半島地震動物対策本部の復興支援活動の一つとして実施

【支援対象者】

- ① 能登半島地震により被災し、避難所でペットが飼育できない状況にある飼い主
- ② 現在、避難所にペットとともに避難しているが、ペットの健康状態に不安がある飼い主
- ③ 震災により健康被害が生じ、入院・治療するためペットが飼育できない状況にある飼い主
- ④ ペット飼育不可のため、1. 5時避難所、仮設住宅、みなし仮設住宅への移動ができない飼い主

被災ペット動物病院一時預かり

【支援条件】

- ① 継続してペットを飼育する意思があること（所有権放棄の場合は石川県に移譲）
- ② 1カ月の預かり期間中にペットと一緒に生活できる方法、またはペットの預け先等を探す努力をすること
- ③ 預け先の動物病院からの連絡に、本人または代理人が対応できること
- ④ 動物対策本部が指定する条件を了承すること

【預かり期間】

原則30日間(通算30日) → 60日間に延長 → 3月31日まで

動物病院での一次預かりは下表に示すとおりで、猫180頭、犬146頭その他18頭羽であり、累積頭数は犬3,348頭、猫5,235頭、兔60羽、小鳥857羽となった。

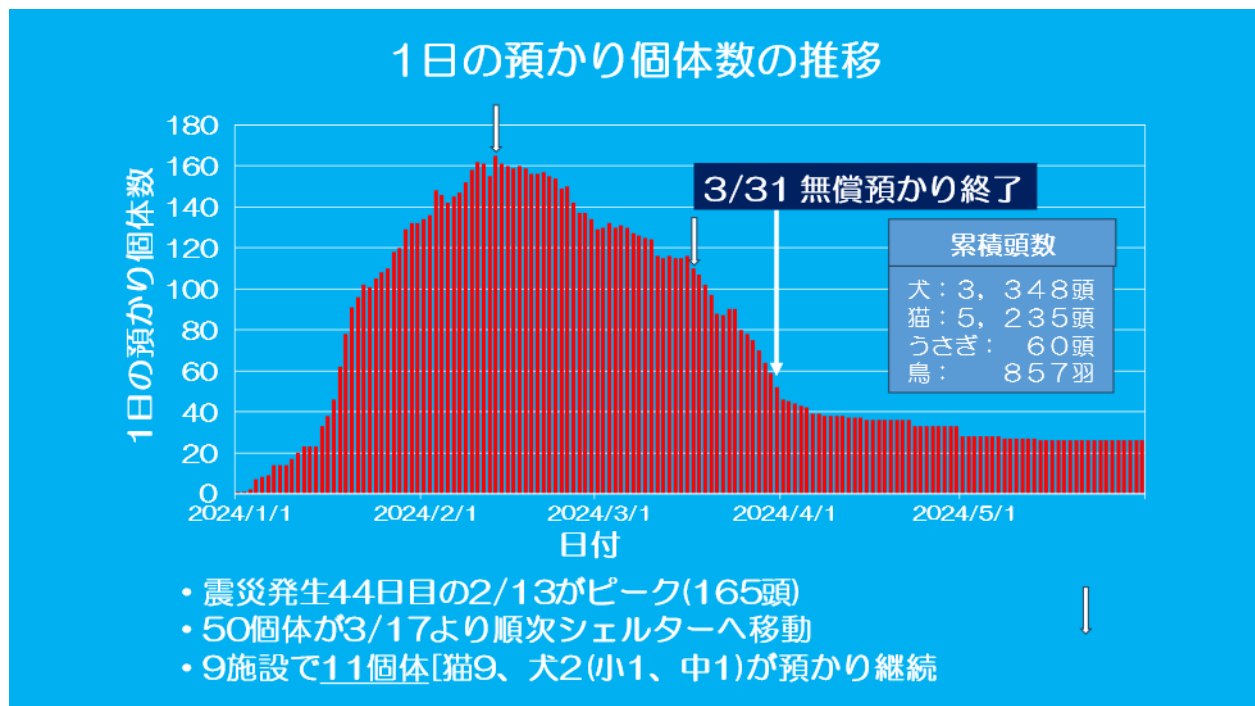
被災ペット動物病院一時預かり

【種別頭数】

動物種	頭数
猫	180
小型犬 (<体重10kg)	117
中型犬 (<20kg)	26
大型犬 (≥20kg)	3
ウサギ	3
小鳥	14
ヒヨウモントカゲモドキ	1

被災ペットの一次預かりは、1月1日の地震発生直後から一部動物病院に搬入されたものも含め、動物対策本部が正式に受入を公表してから3月末までに、毎日のように預け入れや、引取があった。

預かり頭数の毎日の経過は下の棒グラフに示すとおりで、預かりのピークは2月13日の165頭であった。また、4月1日以降はシェルターに移動することになっていたが、飼い主の希望でそのまま動物病院に残る物も多かった。



(シェルターの設置と運営)

シェルター設置と移管

【設置・運営】

名称「ワンにゃんハウスのと」

令和6年能登半島地震動物対策本部

【運営開始】

令和6年3月15日より

【運営期間】

令和6年6月30日まで

【スタッフ】

常勤スタッフ 3名

非常勤: 動物看護師、動物専門学校学生

石川県羽咋郡宝達志水町

動物対策本部では動物病院での預かり期限を3月末までと定め、その受け皿として3月中旬を目処にシェルターの設置作業に入り、3月15日には動物病院からの受入を開始した。

シェルターの設置場所は、被災地と金沢市のほぼ中間に当たる羽咋郡宝達志水町で、

名称は「ワンにゃんハウスのと」とし、設置期限を6月末までと設定した。

シェルターの管理には専任のスタッフ3名を雇用、そのうちの1名はシェルターの設置運営の経験者とした。また、その他飼育管理に必要な人員はボランティアではなく、動物病院勤務の動物看護師や、動物看護師養成学校の学生をアルバイトとして雇用した。シェルターの設置は6月末までとし、ほとんどのペットがそれまでに引き取られていったが、一部の飼い主は仮設住宅等が決まらず引き取ることができないため、引き続き動物病院に預け入れした。

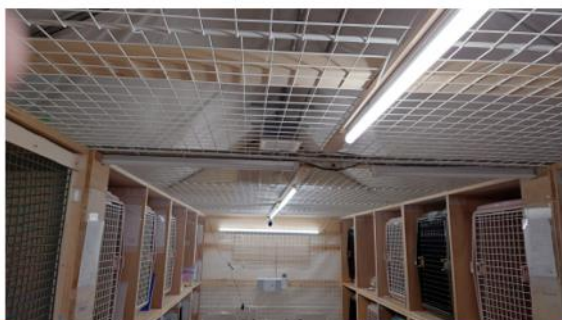
シェルター設置にあたり特に留意した点は、以下の通りであり、特に犬と猫を別棟で飼育できること、部外者の侵入を防ぐ措置を講ずることができること等に留意した。

シェルター設置時に留意した点

- ① 民家が近くにあること（騒音に対する配慮）
- ② 電気・水道が確保できること
- ③ エアコン空調および換気システム、空気清浄器の設置が可能
- ④ 管理体制の構築
- ⑤ 部外者の侵入を防ぐ措置（フェンス、セコム）
- ⑥ 所在地、内部状況等の漏洩防止対策
- ⑦ 内部監視システムの構築（カメラ）
- ⑧ 預かり動物の健康管理体制整備
- ⑨ 管理スタッフの確保

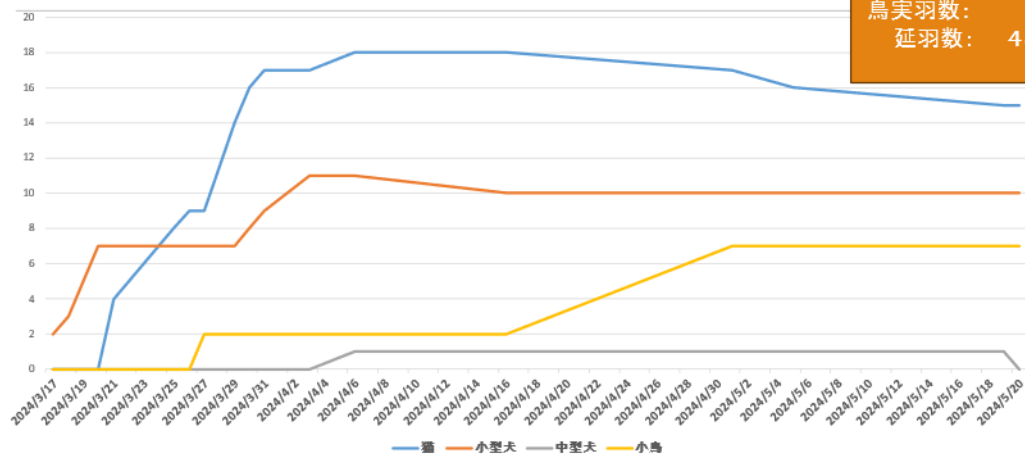
シェルターは写真に示すとおり、外部からは比較的目にとまりにくい場所にあり、貸倉庫2棟をそれぞれ、犬用、猫用とした。設置作業は2月末から始め3月中旬までに使用できるよう進めた。この時期の北陸はまだ寒い時期であることから、暖房ができるように、倉庫の中にさらにテントを設置、エアコン及び脱臭装置を取り付けた。特に猫舎では、厳重な逸走防止対策を施すと共に、夜間の状況を観察できるよう監視用カメラを設置した。また、施設の周囲には外部からの侵入を防ぐためのフェンスを設置すると共に、セコムと契約し夜間の監視体制も整えた。

ワンにゃんハウス能登の運営スタッフは、3月から7月までの7ヶ月間で、常勤スタッフ5名で延べ356人、動物病院の看護師や国際動物看護学校の学生アルバイトなど21名で延べ100名で飼育管理を行い、一般ボランティアや動物愛護団体からの支援は受けなかった。



シェルターでの預かり頭数は、下のグラフのとおりで、犬13頭、延べ頭数1081頭、猫17頭、延べ頭数1229頭、小鳥7羽、延べ羽数488羽で、4月からシェルター閉鎖まで出入りは数頭にとどまった。

シェルター預かり累積推移



預かり実頭数・延頭数	
犬実頭数:	13頭
延頭数:	1,081頭
猫実頭数:	17頭
延頭数:	1,229頭
鳥実羽数:	7羽
延羽数:	488羽

(猫の避妊去勢手術)

令和6年は暖冬で年明けから非常に雪の少ない年であった、地震の被災地区にとってはありがたい部分もあったが、春も早く、猫の発情期に入るのが通常の年より早く、家屋倒壊などにより放浪している猫や、地域に定着している野良猫による爆発的な繁殖が懸念された。そこで、動物対策本部では、被災地における猫の繁殖抑制のための避妊去勢手術を無料で実施する事とした。対象は被災地で飼養されている猫及び、被災地の地域猫で地元住民から手術依頼があった飼い主のいない猫とし、3月1日から5月31日までの3ヶ月間手術を実施した。

手術を実施する際には原則としてマイクロチップを装着することとした。実施手順は下図のとおりで、動物対策本に必ず申し込むこと、飼い主のいない猫については、地域で世話をしている人からの依頼のみを受け付けることとし、県外や被災地以外のボランティア団体からの依頼は受け付けないこととした。

3ヶ月の実施期間中の実施頭数は、不妊手術224頭、去勢手術233頭、既に手術済みであったためマイクロチップのみを装着したもの45頭で、合計502頭であった。

実施地区は6市4町で被災状況がひどかった、輪島市、珠洲市、能登町、志賀町、穴水町、七尾市が多かった。

地区別不妊・去勢手術実施頭数

(3月1日～5月31日)

市・町	不妊	去勢	MCのみ	計
珠洲市	24	28	6	58
輪島市	42	52	20	114
能登町	23	40	1	64
穴水町	43	14	3	60
志賀町	33	38	8	79
七尾市	34	38	2	74
中能登町	0	1	0	1
羽咋市	25	22	1	48
かほく市	0	0	2	2
金沢市	0	0	2	2
合 計	224	233	45	502

(動物対策本部の運営に要した経費)

1 動物対策本部で実施した事業

動物対策本部では、主に以下の事業を実施した。

- (1) 動物病院によるペットの一次預かり
- (2) 被災地での巡回診療及び診療費補助
- (3) シェルターの設置及び運営
- (4) 動物対策本部の運営
- (5) その他

2 各事業に要した経費

(1) 一次預かりに要した経費

動物病院での一次預かりでは、預かりに要する経費のうち餌代、消耗品、人件費等の実費として、下記の金額を支払った。

① 一次預かりに要した経費

	犬	猫	うさぎ	小鳥	合計金額(円)
預入～30日	3,000	3,000	2,000	1,000	18,707,000
31日～60日	1,500	1,500	1,000	500	3,302,500
再預かり経費					637,080

② 搬送経費

ガソリン代等 82,528 円

一次預かり計 22,729,108 円

(2) 移動診療にかかる経費

① ワンにゃん号経費(ガソリン代等)	484,271 円
② 医薬品等	1,118,833 円
③ 獣医師交通費、保険料等	951,032 円
診療費等計	2,554,136 円

(3) シェルターにかかる経費

① シェルター設置費	10,425,782 円
② シェルター運営経費(人件費、セコム、治療費等)	6,517,494 円
③ その他(搬送経費、治療費等)	337,645 円
シェルター設置運営費計	17,280,921 円

(4) 不妊・去勢手術にかかる経費

① 不妊手術+マイクロチップ	6,415,000 円
② 去勢手術+マイクロチップ	4,440,000 円
③ マイクロチップ + 登録料	778,000 円
不妊去勢手術計	11,633,000 円

(5) 対策本部運営経費(令和7年3月まで)

① スタッフ賃金等(4名)	7,097,164 円
② 電話設置費、通信費等	502,396 円
③ 消耗品等	237,540 円
対策本部運営費計	7,837,100 円

3 今後必要な経費

(1) **移動診療車購入費及び維持管理費** **14,570,000 円**

今回の能登半島地震では、発災後1ヶ月程度は現地に入ることも困難な状況が続いた。そのような中、岩手大学から移動診療車を借りることができた。移動診療車には診療に必要な機器や器具が備え付けられているため、現地での診療活動をスムーズに実施することができた。

この経験から、今後の災害発生時に備え、移動診療車を整備し近県での災害発生時にはいつでも貸し出すことができるような体制を整える。

また、奥能登地域には動物病院が無いが、あっても1病院だけという自治体もあるので、こういった地域に出向いての地域猫対策に活用することとする。

① 移動診療車購入費	9,570,000 円
② 維持管理費 500,000 円×10年	5,000,000 円

(2) 被災地における地域猫の避妊・去勢対策費 21,000,000 円

被災地の能登半島では、地域猫（野良猫）非常に多く、地域住民はその対策に苦慮している。今回の地震発生時には、動物対策本部で緊急的に現地での避妊・去勢手術を 500 頭実施したが、これは全体のほんの一部に過ぎず、今後継続的に対策を実施する必要がある。能登の自治体は震災対策に追われ地域猫対策までは手の届かない状況であるが、今後については、自治体や愛護団体等と協力して能登における地域猫対策を推進していくこととしたい。

助成金 3,000 円／頭×700 頭／年×10 年＝21,000,000 円

4 報告書作成経費 500,000 円

5 今後の災害発生時等の準備資金 13,600,084 円

(収支決算)

1 収入(R7.3.25)

項目	金額	備考
初期活動費助成金	2,000,000 円	日本獣医師会
〃	1,000,000 円	日本愛玩動物協会
シェルター運営助成金	7,217,210 円	石川県
寄付金	101,461,650 円	全国から 2,304 件
預金利息	25,489 円	
収入合計	111,704,349 円	

2 支出(R7,3,25)

項目	金額	備考
一次預かりにかかる経費	22,729,108 円	動物病院
移動診療にかかる経費	2,554,136 円	ワンにゃん号等
シェルターにかかる経費	17,280,921 円	設置・運営費
不妊去勢手術にかかる経費	11,633,000 円	
対策本部運営にかかる経費	7,837,100 円	人件費、通信費等
移動診療車購入費	9,570,000 円	
〃 維持管理費	5,000,000 円	10 年分
被災地の地域猫対策費	21,000,000 円	10 年分
報告書作成費	500,000 円	
災害等準備資金	13,600,084 円	
支出計	111,704,349 円	

(振り返り)

今回の地震では、地震発生後直ちに日本獣医師会や環境省の支援のもと石川県と石川県獣医師会とで動物対策本部を立ち上げた。石川県とは「災害時における被災動物救護活動に関する協定書」を交わしているが、今回双方の人員不足等あり連携がうまくいかなかった点は反省点である。しかしその結果、活動の大部分は獣医師会単独で実施する事になったが、実施決定課程が単純であるなどが功を奏し迅速な対応が可能となり、被災者の要望に応えることができた。

下の写真は、今回の地震対策で中心的役割を果たした石川県獣医師会のメンバーです。もちろんこのメンバーの他、多くの会員が一次預かりや避妊去勢手術、また、巡回診療やシェルターの衛生管理などに積極的に協力してくれました。

対策本部事務局を預かっていた者としては、石川県獣医師会の全ての会員を始め、日本獣医師会や関係団体の方々、被災したペットのために寄付をいただいた全国の方々のご協力がなければ、地震対応はできなかったと思います。改めて感謝申し上げます。

ワンニャン号とスタッフ



イギリスケネルクラブが主催する
「International Canine Health Awards」
の特別賞を受賞

